

生涯をかけて苦楽を共にしたコレクションが、世間の絶賛を博し、池長の名を冠して大切に保存され・・・池長さんこそはホントの幸せ者というべきだろうと、私は信じている。

小林一三

これ実に池長氏の業績が長く日本文化の上に輝くのであり、これから後の人々が、この美術館からうくる恩恵はいよいよ大きいであろう。港都なるが故に益々世界人にこれを知らしむるよう努められんことを望んでやまない。

藤懸静也



左は、昭和30年(1955)に池長孟が逝去した際の、追悼の言葉。
右の写真は昭和10年頃、西洋風の邸宅「紅塵荘」で撮影。背後の絵画作品はこれです。

特別展 南蛮堂コレクションと池長孟

於：神戸市立博物館

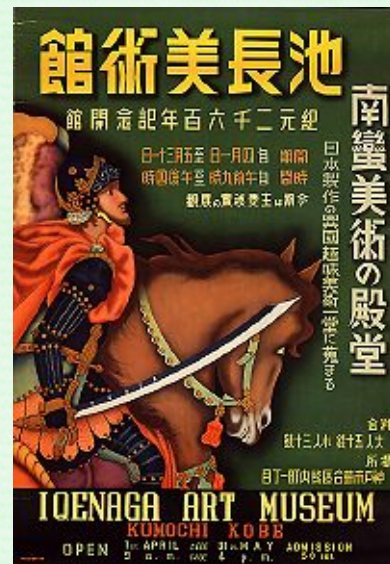
2003年7月19日(土)～8月31日(日)

休館日：毎週月曜日および7月22日(火) ただし7月21日は開館

午前10：00～午後5：00 (入館は午後4：30まで)

兵庫の名家の富を若くして受け継いだ池長孟(いけながはじめ、1891～1955)は、昭和初年から南蛮美術に魅せられ、当時は未知のジャンルであったこれらの美術品を蒐集(しゅうしゅう)しました。彼は「蒐集は、一つの創作である」という信念を掲げ「日本で製作された異国趣味美術品」の集大成をめざし、自らを「南蛮堂」と号しました。聖フランシスコ・ザヴィエル像、狩野内膳筆南蛮屏風、泰西王侯騎馬図といった、神戸市立博物館所蔵の名品の数々は、池長によって集められ、神戸にもたらされたのでした。

さらに昭和15年(1940)には「神戸のような国際大都市にして、美術館の一つも持たないということは、国民教養の程度も察せられて大きな国辱である」と考えて、自分で「池長美術館」を作り、コレクションを一般に公開しました。



昭和15年(1940)開館当時の池長美術館のポスター。



昭和15年、池長美術館にて。当時を代表する文化人が勢ぞろい。前列右より池長孟、谷崎潤一郎、林重義、川西英。後列右より竹中郁、小磯良平。背景に展示されているのは泰西王侯騎馬図。

池長美術館では、昭和19年までに5回の展覧を行っていますが、第二次世界大戦の戦局の悪化により、ついに閉鎖されることとなります。洋風文化排撃の風潮の中、美術館に対する世間の眼は冷たく、空襲の被害を奇跡的に免れたものの、敗戦後は占領軍の接収で再開もかなわず、しかも過酷な財産税の対象とされて、稀代のコレクションは散逸の危機に直面することとなります。昭和26年(1951)、ついに池長は自分の分身ともいべき7千点以上の美術品・資料を美術館とともに神戸市に委譲し、その永久保存と内容充実、普及啓蒙を後世に託しました。彼は昭和30年(1955)に亡くなりますが、そのコレクションは、神戸市立博物館に引き継がれ今日に至っています。

この人なくしては、現在の神戸市立博物館はなかったといっても過言ではなく、毎年行っている南蛮美術展の歴史も通算して60年を越えました。博物館の存在意義が混沌としてきた昨今、あらためて原点に立ち帰り、池長の理想を再確認することが本展覧会のねらいです。

展覧会では、当館が所蔵する南蛮美術の名品をはじめ、かつて池長が所蔵していた作品などを交え、彼の理想そして蒐集コレクションの素顔を紹介します。知られているようで知られていない池長の南蛮・紅毛美術の様相を知るまたとない機会といえるでしょう。当館所蔵の異国趣味美術の名品はもちろん、手放した作品も15点ほど「里帰り」します。また会場のビデオコーナーでは、池長撮影による戦前の貴重な16ミリカラー映像がご覧いただけます。

会 期 : 2003年7月19日(土)～8月31日(日)
開館時間 : 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休 館 日 : 毎週月曜日および7月22日(火) ただし7月21日は開館

入館料

	個人	団体

※団体は30名以上です。



大正9年(1920)に発見された《聖フランシスコ・ザヴィエル像》の入手を、長年にわたり池長は望んでいた。昭和10年(1935)、垂水の別宅を売却して得た資金でついに念願をはたした。



南蛮堂コレクションは、昭和7年(1932)に飛躍的な充実をはたす。《都の南蛮図》をはじめとする永見徳太郎コレクション一括、《四都図世界図屏風》、《花下群舞図屏風図》を購入。さらにほぼ同時期に《泰西王侯騎馬図》と狩野内膳筆《南蛮屏風》を東奔西走して入手。池長孟の旺盛な行動力・資金力が発揮された。



荒木如元の代表作として知られる《オランダ海港図》も、かつての南蛮堂コレクションの優品のひとつ。戦後、財産税に苦しめられた池長孟は、いくつかの作品を手放すことを余儀なくされた。この絵は現在大和文華館の所蔵(会期後半に展示)。

一般	600円	450円
高校・大学生	400円	300円
小・中学生	250円	150円
シルバー	300円	

※シルバーは、65歳以上で神戸市すこやか手帳持参の方

主催：神戸市立博物館、神戸新聞社 NHK神戸放送局
後援：サンテレビジョン、AM神戸

★オールカラーの図録（1500円）と、ガイドブック（小中学生には無料配布）を用意しています。

★池長孟撮影カラー16ミリフィルム：

会場内ビデオコーナーにて連続上映

池長美術館と池長孟、神戸・大阪・東京風景など（昭和12～3年撮影）



★当館学芸員による記念講座：

8月2日（土） 「パトロンとしての池長孟」 勝盛典子

8月23日（土） 「化して南蛮の鬼となった男」 成澤勝嗣

いずれも14：00～ 当館地階講堂にて

★池長孟撮影モノクロ16ミリフィルム上映会：

記念講座開催日以外の土曜日、14：00～15：00 当館地階講堂にて

同時開催

ギャラリー 山下摩起展（9月4日まで）